

清流会館の貴重な作品が資料館に寄贈されました

このたび、イタイイタイ病対策協議会が清流会館で大切に保管されてきた一審判決文の書の作品が資料館に寄贈されました。

イタイイタイ病に関する運動拠点である清流会館の玄関を入った正面には、1976（昭和51）年の完成に合わせて製作された大きな銅版が掲げられています。今回寄贈されたものはその銅版の基となった作品です。これは公害裁判で初めて住民側が勝訴したイタイイタイ病裁判一審判決の一節が書かれた作品で、神通川と深く結びついていた当時の生活を端的に表現したことばが、書道家・中田大雪氏の力強い筆跡で記されています。

12月14日、イタイイタイ病対策協議会の会長である高木勲寛さんと、副会長でこの作品づくりのために奔走された高木良信さんから、鏡森館長に作品が手渡されました。資料館では、多くの人々の目に留まる2階・資料閲覧室前に飾ることにしました。生命の源である「水」の尊さ、そして自然環境の大切さを考えさせる貴重な資料として、後世にしっかり受け継いでいきます。



小学校の先生方が資料館の活用策を探りました

学校の課外学習で資料館を有効に活用していただくため、12月26日に小学校の教員等を対象にした研修会を開催しました。

当日は30名もの先生が参加され、最初に小学校が来館したときの学習メニューを体験。ガイダンス映像の視聴と職員の解説を交えた展示見学を終えた後、語り部の高木良信さんから貴重な体験談を聴きました。資料館が初めてという先生も多く、実際に子どもたちが学習する姿を思い浮かべながら、参加されている様子うかがえました。

その後、イタイイタイ病の副読本を監修された水上義行氏（富山国際大学子ども育成学部教授）の「イタイイタイ病に学ぶ」と題した講義を開催。県立の資料館ができたことで、社会科や道徳、総合的な学習の時間に「イタイイタイ病」を教材とするための環境が整ったことの説明がありました。資料館や副読本での学習を通して、子どもたちには「いのちの尊さ」「自然破壊への代償」「共生社会への道筋」を知ってもらいたいと熱く語られる場面もあり、それを聴かれている先生方の真剣なまなざしが、とても印象的でした。



2/16「県民フォーラム」など 今年もイベントを開催します！

資料館が実施する最大イベント「イタイイタイ病を考える県民フォーラム～四大公害病に学び、教訓を未来へ～」の開催内容が決まりました。たくさんのご参加をお待ちしています。

と き：2月16日（土）10時～16時

内 容：資料館での学習成果の発表、北野大氏による記念講演、四大公害病の資料館長らによるシンポジウム（全国初）など

参加料：無 料 ＊2月8日（金）までに事前申込が必要です。

*詳しくは、ホームページ (<http://itaitai-dis.jp>) をご覧ください。

このほか平成25年に資料館で実施する主なイベントの開催予定もご案内します。詳しい内容は、ホームページなどで順次お知らせします。

◆夏休み自由研究講座・イタイイタイ病を学ぼう

○8月2日（金）、3日（土） ＊対象は、小学校高学年とその保護者

○イタイイタイ病教室、語り部と回る展示見学、水の実験 など

◆イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

○8月9日（金） ＊対象は、小学校高学年とその保護者など

○神岡鉱山（排水処理施設、たい積場など）や復元田をバスで見学

◆語り部による伝承会

○9月28日（土）

○四大公害病の語り部らによる講話・意見交換会 など

◆イタイイタイ病資料館活用研修会

○12月26日（木） ＊対象は、小学校教員

○解説付き展示見学、語り部講話、資料館活用講義 など